

# 社報 御霊本宮

第88号

発行者

御霊神社本宮  
宮司 藤井利夫  
五條市霊安寺町  
0747-23-0178

発行日

令和3年  
10月15日

## 神を守る 狛犬たち

その狛犬たちは、その後、単なる置物ではなく、神を邪悪なものから守るものとして、本殿内に置かれることになっていきます。

狛犬が日本に伝わったときは、片方が獅子で一方が胡摩犬であったと言われます。どちらも角がなく、姿も同じであったのが、時代を経るにつれ、角を付いたり尾が大きくなったりして装飾が華やかになっていきました。当初は小型の木造で、幄の裾を押さえる調度品として使われていました。

さらに時を経て、狛犬は絵馬と同じような考え方で、祈願するためのもの、あるいは祈願が成就したことによるお礼として奉納されるようになりました。それが石造狛犬のはじまりです。すると、装飾の派手なものが好まれるようになり、石工たちは競って独創的な狛犬を造るようになりました。



それまで一本だった尾が数本に分かれたり団扇のように横にひろがったり、耳が垂れたり後方になびくような形になったり、表情も恐ろしいものから笑顔のようになっています。

五條文化博物館秋季企画展

「神を守る狛犬たち」

地元の氏子さんですら見たことのない社殿内に安置された木造狛犬二十三体が初めて公開されます。狛犬の変遷や特徴の解説もあります。

会期 十月三十日(土)～十一月十四日(日)

※月曜・祝日の翌日休館

入館料 一般三〇〇円

高校・大学生二〇〇円

中学生以下無料

※会期中の入館者には特製「狛犬しおり」(非売品)をプレゼントします。また、狛犬総選挙も行いますので、ぜひ投票してください。投票者全員が当たります。のなかから抽選で狛犬グッズなどが当たります。

なったり・・・

神社参拝の折には、狛犬の姿かたちをじっくりと眺めてみてほしいと思います。

宇智郡 狛犬めぐり

今井町 荒木神社

荒木神社に

は狛犬が二対

あり、一対は

参道にありま

す。(五月十五

日号に掲載済

み)

本殿前のこ

の狛犬は一見

して他の神社の狛犬とは全く違う雰囲気があり、大陸から伝わった当時のような顔かたちです。ただ、耳の垂れ方や尾が団扇型になっていることから江戸時代頃の製作かと思われま。参道の狛犬は天保三年(一八三二)

奉納のもので、その前後に奉納されたものかもしれません。鍵のかかった拝殿の奥に設置されていますので間近で見ることができませんが、ぜひ覗いてほしい狛犬です。



# 有間皇子 ありまのみ

有間皇子は舒明天皇十二年（六四〇）、軽皇子の御子として誕生しました。

大化元年（六四五）、軽皇子が孝徳天皇として即位し、難波長柄豊碕宮に遷都して政治の改新を進めました。

白雉四年（六五三）、皇太子・中大兄皇子は孝徳天皇に難波から大和へ都を遷すことを進言しましたが、天皇はこれを認めませんでした。このようなことがあって、中大兄皇子と孝徳天皇の間に溝ができていきました。そして、中大兄皇子は皇極天皇（中大兄皇子の母）や弟の大海人皇子、妹で天皇の皇后の間人皇女や都の役人らを通して飛鳥へ戻ってしまいました。

白雉五年、難波の都で孝徳天皇は病に倒れました。この知らせを聞いて中大兄皇子や皇極天皇、大海人皇子、間人皇女らは見舞いに出かけています。しかし、孝徳天皇は寂しくこの世を去

ってしまいました。有間皇子はこのとき十五歳でした。

中大兄皇子は皇太子として政治の実権を握ったまま、中大兄皇子の母が再び斉明天皇として重祚しました。父である孝徳天皇がいなくなり、子の有間皇子は次の天皇の候補者として表に出るようになりました。中大兄皇子としては、有間皇子は邪魔な存在と映ったことでしょう。日本書紀によると

齊明天皇三年（六五七）九月、十八歳の有間皇子は狂人のふりをしたとあります。皇位継承に絡み命の危険性が迫っていたことを示す一文です。

皇子はその治療のため紀伊の牟婁の湯（白浜町湯崎温泉）に出かけました。都に戻った有間皇子は斉明天皇に「その場所を見ただけで病気が治ると牟婁の湯のことを報告し、この言葉を聞いた天皇は大変喜んだといま

す。天皇一行がこの牟婁の湯に行幸している間に有間皇子を陥れる陰謀が

始まりました。都に残って留守役を勤めていた蘇我馬子の孫の蘇我赤兄が有間皇子の市経（生駒）の家を訪ねま

した。赤兄は有間皇子に天皇の3つの失政を語ったのです。「天皇が大きな倉庫に人々の財を集めている」「長い用水路を造り人夫にたくさんのお金を費やしてしまった」「船で石を運んで丘を築き人々を苦しめている」と。

これを聞いた有間皇子は赤兄が自分に好意を持っていることを知り、「我が生涯で初めて兵を用いるべき時がきた」と言いました。

二日後、今度は有間皇子が赤兄の家を訪ね、謀反の相談をしました。すると床几（腰掛）がひとりで壊れてしまいました。これは不吉なこと知り、謀反の相談を中止し互いに秘密を守ることを誓って帰りました。

有間皇子が帰った後、赤兄は物部朴井連鮪に命じて都の工事の人夫を率いて有間皇子の家を取り囲みました。そして早馬を遣わして天皇のところ

八百萬の神々々々 やちまんのかみ

## 大気都比売神

大気都比売神の名は古事記のみに登場し、日本書紀には記載がありません。古事記には次のことが書かれています。

素戔嗚尊が大気都比売神に食べ物を求めました。それで大気都比売神は鼻や口、尻より種々の食べ物を出しました。これを見た素戔嗚尊は汚らわしいと思い、大気都比売神を殺してしまいました。すると大気都比売神の体から、蚕、稻、粟、小豆、麦、大豆が生

成されました。オオケツとは偉大な食物の神という意味で、五穀を司ります。大気都比売神は日本書紀では保食神という名前が登場します。どちらも食物の神で、農業や養蚕の神とされています。のちに登場する豊宇氣毘売神、あるいは宇迦之御魂神と同神とも考えられています。

へ奏上しました。有間皇子は守君  
大石、坂合部連葉、塩屋連鯛魚ら四人  
とともに捕らわれ、牟婁の湯に送られ  
ました。

有間皇子は赤兄の裏切りによるも  
のだと知ったことでしょう。赤兄は中  
大兄皇子を助ける重臣の一人であり、  
謀反を起こすはずがないということ  
をこの時に気づいたと思われませんが、  
遅すぎました。赤兄の家を訪ね拳兵の  
意志を示したことは事実であり、どう

弁明しても逃れられないと悟った有  
間皇子は、牟婁の湯へと送られる道中  
に死を覚悟したのかもしれませんが。

中大兄皇子は自ら有間皇子に「どん  
な理由で謀反を図ったのか」と聞きま  
した。有間皇子は「天と赤兄が知って  
いるでしょう。私は全く分かりませ  
ん」と答えました。

十一月十一日、丹比小沢連国襲を遣  
わして、有間皇子を藤白坂で絞首にし  
ました。有間皇子、十九歳でした。そ  
して塩屋連鯛魚、新田部連米麻呂を斬

りました。

塩屋連鯛

魚は殺され  
るといふ時

に、「どうか

右手で国の

宝器を作ら

せて欲しいものだ」と言いました。守

君大石を上毛野国に、坂合部葉を尾張

国に流しました。



藤白坂

阪和自動車道の海南インターチェ

ンジ付近に、藤白神社があります。境

内には有間皇子を祀った有間皇子神

社があり、有間皇子の命日の十一月十

一日には「有間皇子まつり」が催され

ます。藤白神社から南へ約二百m、藤

白坂の入口にあたるこの地で有間皇

子は処刑されたと伝えられています。

護送中の有間皇子が詠んだ「家にあれ

ば 筥に盛る飯を 草枕 旅にしあれば

椎の葉に盛る」が刻まれた歌碑もあり

ます。

今年も

### 燈火祭を行います

昨年の秋季例祭の宵宮に、初めて燈  
火祭を行いました。今年も本月二十三  
日の宵宮に本宮で実施します。

参拝者全員に無料で燈火を配布し  
ます。皆様の願いを燈火に込めて奉納  
ください。同時に当歳児御神樂の奉納  
も行いますので、ご家族お揃いでご参  
拝ください。

燈火祭および当歳児御神樂の受付  
時間は午後六時から七時半までで、燈  
火の終了は午後八時です。なお、雨天  
でも拝殿内で実施します。

当歳児とは、この一年に生まれた子ど  
ものことをいいます。厳密には昨年九月  
一日から今年の八月末日までに生まれ  
た子です。



当歳児御神樂

その地域で生まれた子は、その地域に  
ある神社の氏子となりますが、当歳児御  
神樂を奉納してはじめて正式な氏子と  
なります。これは、昔、一歳になるまで  
に亡くなる子どもが多く、無事に一年を  
過ごした子どもが、これからも健康であ  
りますようにと願いを込めて御神樂を  
奉納しました。

現在は医療も進み、当たり前のよう  
に満一歳の誕生日を迎えますが、子どもが  
健康ですくすくと育つことを願うのは、  
いつの時代も変わりません。

年齢に関係なく、立派に育った自分を  
神様に見ていただく機会をもつことで、  
気分を新たに生活をお営むことができ  
ることでしょう。

Instagram  
@goryohongu



Twitter  
@goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を  
付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>

日本書紀にみる

# 十二代景行天皇(五)

十七年春三月十二日、子湯こゆのあがた県(宮崎県児湯)に行き、丹裳にものおの小野に遊ばれました。

そのとき東方を望み、お側の者に言ったのが、「この国はまつすぐに日の出る方に向いている」と。それで、その国を名づけて日向といっています。

この日、野中の大石に登って、都を偲んで歌を詠みました。

「なつかしいなあ。我が家の方から雲が湧いて流れてくるよ。大和は最も優れた国。青々とした山が重なって、垣のように包んでいる。大和の国は美しいなあ。命の満ち溢れた人は、平群へぐりの山の白檀の枝を髪飾りとして髪に挿しなさい。この子よ。」これを、国徳歌くにとくたといっています。

十八年春三月、天皇は京に向われようとして、筑紫の国を巡幸しました。最初に夷守ひなもりに着きました。このとき岩

瀬川のほとりに群衆が集まっています。天皇は、遙かに眺めて、お側の者に、「あの集まっている人たちは何だろ。賊だろるか」と言いました。兄夷守えひなもり、弟夷守の二人を遣わして様子を見させました。弟夷守が帰ってきて、「諸県君もろかたのみみ泉媛いずみひめが、帝にお召し上りものを奉ろうとして、その仲間が集まっているので」と言いました。

夏四月三日、熊県くまのあがたに着きました。そこに熊津彦くまつひこという兄弟がいました。天皇は先ず兄熊えくまエクマを呼びました。彼は使いに従ってやってきました。そして弟熊おとくまも呼ばれました。しかし、彼はやつてきませんでした。そこで兵を遣わして討ちました。

十一日、海路から葦北あしきたの小島に泊り、食事をしました。そのとき、山部阿弭古やまべのあびこの祖である小左おひだりを呼んで、冷たい水を献上させました。

このとき、島の中に水がなかったの  
で、致し方なく天を仰いで天神地祇に  
祈りました。すると、たちまち冷たい

水が、崖の傍から湧いてきました。それを汲んで献上しました。それで、島を名づけて水島といいました。その泉は今でも水島の崖に残っています。

五月一日、葦北から船出して火国ひのくにに着きました。ここで日が暮れました。暗くて岸に着くことが困難でした。遙かに火の光が見えました。天皇は船頭に「まつすぐに火のもとへ向っていけ」と言いました。それで火に向って行く

と、岸に着くことができました。天皇はその火の光るもとを尋ねて、「何という邑むらか」と聞きました。国人は答えて、「これは八代県やしろのあがたの豊村とよむらです」と言いました。また、その火を問われて、「これは誰の火か」と言いました。

しかし主が判りません。人の燃やす火ではないということから、その国を名づけて火国ひのくにとしました。

六月三日、高来県たかくのあがたから玉杵名邑たまきなのむらに行きました。時に、そのところの土蜘蛛つちぢの津つち頰かほというのを殺しました。  
(次号につづく)

## ま(マツ)

磐代いわしろの濱松はままつが枝えを引ひき結むすび  
眞ま幸さきくあらば 又かえも還かえり見みむ  
有間ありま皇子のみこ 卷まき二一四一

岩代の浜にある松の枝を今こうして  
結んでいくけれど、もしも無事であつ  
たなら帰りにまたこの松を見よう。

有間皇子は、こ

のときすでに死を  
覚悟していたと思  
われます。



かすかな望みを  
歌に託してはみた  
ものの、中大兄皇子が許すはずもあり  
ません。

中大兄皇子が仕組んだと思われる陰  
謀にはまってしまった有間皇子は、こ  
のとき十九歳。若い有間皇子にはそれ  
を見抜けませんでした。皇子の無念さ  
がにじみ出た歌です。